

EU 支部長: 松原真実子 MATSUBARA Mamiko 国際文化研究専攻修了 修士論文『異文化間コミュニケーションの研究—フィードバック作用—』

## イタリア コーヒー 2 杯と水で 9 5 0 0 円、観光客相手のぼったくり横行

2023.08.21 Mon posted at 17:15 JST

## この号の内容

1 イタリア コーヒー2杯と  
水で9500円、観光客相手の  
ぼったくり横行

2 EU 支部だより

・サンベットやパラソルの  
レンタル

・観光客6800万人

・イタリアバカンスの変化



・自由な海

・政治とビーチ営業権



首相府による、ジョルジャ・メローニ首相さえも今年はアルバニアのビーチで短期間の休暇を過ごした。8月15日前後の夏休みにイタリア国内で休暇を過ごすイタリア人は、コロナ禍前に比べて約30%減の1400万人にとどまるという予想もある。「空の便や宿泊施設、パッケージ旅行の値上がりしがイタリア人の休暇の習慣を根本から変えさせた」と消費者団体の担当者は解説する。

しかし外国人観光客は、そうした国内観光客の落ち込みを上回って増えている。イタリア観光省の予想では、この夏にイタリアを訪れる観光客は6800万人と、コロナ禍前より300万人以上増える見通し。このため外国人観光客は、最も手っ取り早い便乗値上げの標的になっている。観光省によると、今年は米国とアジアからの観光客が押し寄せており、支出額が多く滞在期間も長い傾向にあるロシア人観光客と入れ替わった。特にひどい値上げが見られるのは、ビーチでサンベッドやパラソルをレンタルしている業者だ。プーリア州でサンベッド2台とパラソル1本をレンタルした場合の料金は、平日は平均50ユーロ、週末はほぼ2倍になる。さらに北部のポルトフィーノのような観光地では、混雑するビーチの最前列のレンタル料が平日で150ユーロになることもある。それも、地元の住民が先に最前列を予約していなければの場合だ。ホテル協会の関係者は、「(エジプトの)シャルムエルシェイクの方がずっと安いので、多くのイタリア人が国外に出かける」と話し、サルデーニャ島のような昔からのイタリア国内の観光地に家族で出かければ、高額なフェリー代や航空運賃から始まって、値段がつり上がったホテル代や高額な食事代に多額がかかること指摘した。

## EU 支部だより —海は有料？無料？—

イタリアでは、国民の多くが、「海は無料で楽しめる公共の場」であるという権利を知らず、ビーチに行くには、料金を支払うのが当然と考えています。こうした状況に疑問を投げかける市民団体「マーレ・リベロ(自由な海)」は、2019年から抗議活動を続け、誰もが自由に海を利用できる社会の実現を目指しています。

イタリアでは、国有地である海岸の営業権が長年にわたり特定の事業者やその家族に自動的に引き継がれてきました。これにより、ビーチクラブが会員制となり、ラウンジャーやパラソルの利用に高額な料金が課されるようになっていきます。欧州委員会はこの制度を違法とし、イタリア最高裁判所も2024年から営業権の自動更新を無効とする判決を下しました。これにより、イタリアの約7,900キロに及ぶ海岸線の半分以上が公開入札の対象となる予定です。

しかし、既存のビーチ業者はこの変化に強く反発しており、営業開始時間を遅らせるストライキなどを通じて抗議の姿勢を示しています。彼らは、ライフガードや清掃などのサービス提供の重要性を訴え、政府に法制度の明確化と支援を求めています。

一方、活動家たちは文化的な意識改革にも力を入れています。「ビーチは高額な料金を払って利用するもの」という固定観念が根付いていることに危機感を抱いており、南イタリアでは無料で清潔なビーチがわずか5%しか存在しないという現状があります。汚染された海岸でも、他に選択肢がないために人々が泳ぎ続けているという実態もあります。

さらに、政治とビーチ営業権の結びつきも問題視されています。北部リグーリア州では海岸の約70%が民営化され、一部の町では100%に達しています。活動家たちは、公共ビーチの保護と透明な入札制度の導入を求めており、国が徴収する営業権料を公共設備の整備に活用すべきだと訴えています。イタリア会計検査院の報告によれば、国は営業権から年間平均1億170万ユーロを徴収していますが、各事業者は平均26万ユーロの収益を得ているとのこと。

このように、「マーレ・リベロ」の活動は、海を誰もが平等に楽しめる場として取り戻すための社会的・文化的運動で、イタリアの海岸線に新たな公共性をもたらす可能性を秘めています。

(松原)